

病防第29号
令和6年(2024年)7月12日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

トマトキバガの発生状況と防除対策(技術情報第7号)について(送付)
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

県内各地に設置したトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺が過去2ヵ年より多い状況である。一部のミニトマト栽培ほ場では食害が確認されたことから、今後の発生に十分注意する。

1 現在の発生状況

- (1) 県内6カ所に設置したトマトキバガのフェロモントラップにおいて、成虫の誘殺が継続的に確認されている。いずれの地点も令和4年度、令和5年度の同時期より誘殺数が多い状況である(図1)。
- (2) 6月下旬に、ミニトマト1ほ場(冬春作の終期)でトマトキバガによる食害が確認された。

2 注意を要する作物

トマト、ミニトマト、ナス、バレイショ

3 防除対策等

- (1) 施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合1mm以下)を設置し、侵入を防止する。
- (2) 被害の特徴を把握し(別添)、ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (3) 被害株や被害果実を発見した際は、速やかにほ場内から除去する。除去した被害株などを野外に放置すると周囲に拡散するため、土中に深く埋設するか、ビニール袋などに入れ、生きた虫が見つからなくなるまで一定期間密閉した上で適切に処分する。
- (4) 薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。なお、現時点の農薬登録はトマト、ミニトマトのみであるので注意する(表1)。
- (5) 施設栽培では、栽培終了後の密閉処理を徹底する(発生ほ場での目安は1ヵ月以上)。なお、マルチ等の資材にも、蛹や成幼虫が付着している可能性があるため、使用した資材は密閉処理が終了した後に搬出する。

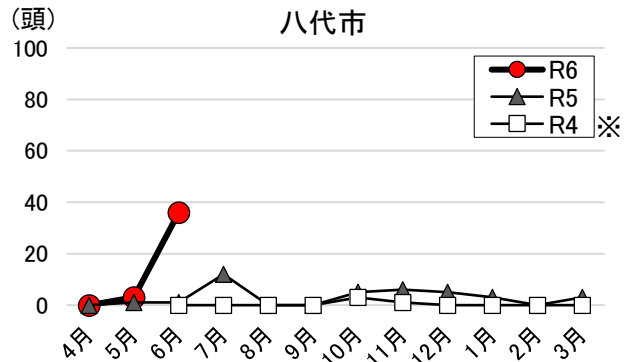
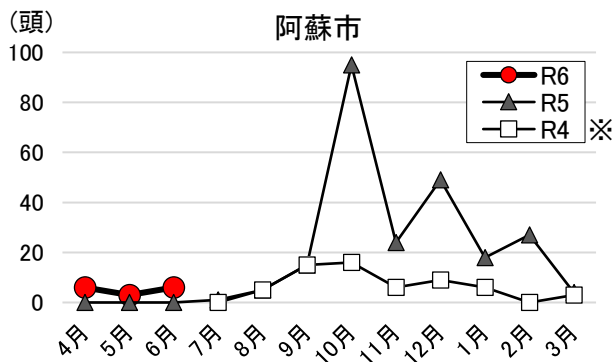
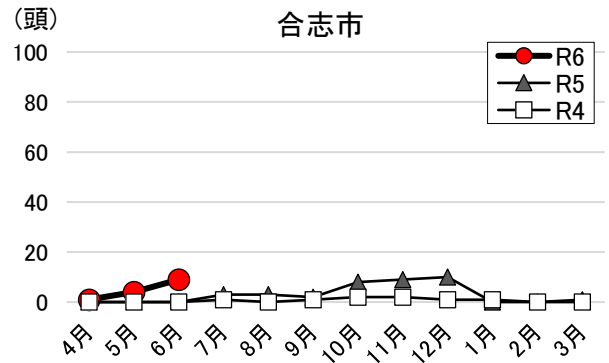
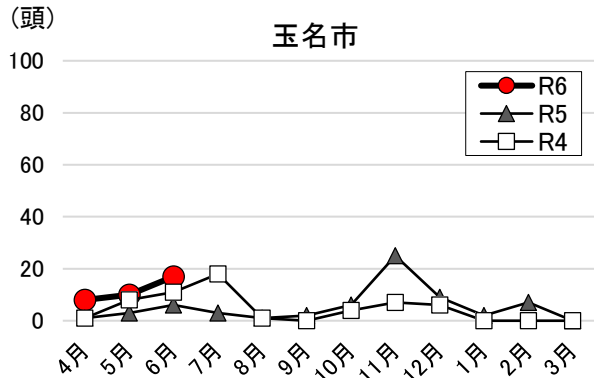
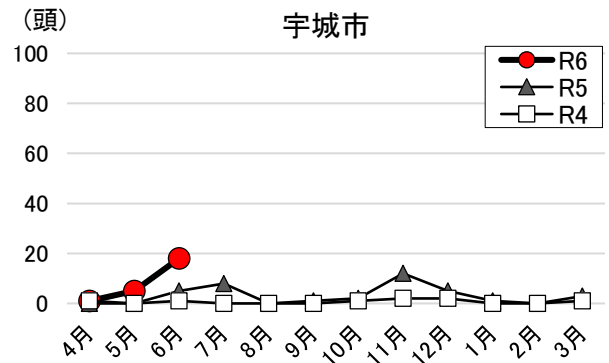
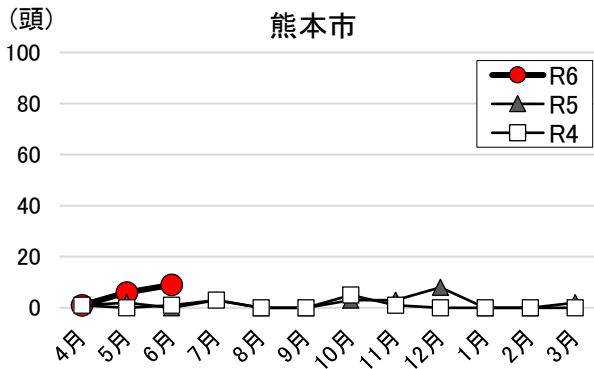


図1 各地域に設置したフェロモントラップへのトマトキバガ誘殺数(R6は暫定値)

※阿蘇市のR4は7月19日から、八代市のR4は6月15日から調査開始。

(調査の一部はイノベーション創出強化研究推進事業(JP007097)において実施した)

表1 トマトキバガに登録のある農薬(令和6年7月12日時点)

農薬の名称	登録の有無		IRAC コード※	農薬の種類	使用時期	希釈倍数 /使用量	使用方法	使用 回数
	トマト	ミニトマト						
ディアナ SC	○	○	5	スピネラム水和剤	収穫前日まで	2500～ 5000 倍	散布	2回 以内
ラディアント SC	○	○		スピネラム水和剤	収穫前日まで	2500～ 5000 倍	散布	2回 以内
ダブルシューターSE	○	○		脂肪酸グリセリド・ スピノサド水和剤	収穫前日まで	1000 倍	散布	2回 以内
アフーム乳剤	○	○	6	エマクチン安息香 酸塩乳剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	5回 以内
アグリメック	○	×		アバクチン乳剤	収穫前日まで	500～ 1000 倍	散布	3回 以内
エスマルク DF	○	○	11A	BT 水和剤	発生初期,但し 収穫前日まで	1000 倍	散布	—
コテツフロアブル	○	○	13	クロルフェナピル 水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	3回 以内
トルネードエースDF	○	×	22A	インドキサカルブ 水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	2回 以内
ファイントリム DF	○	×		インドキサカルブ 水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	2回 以内
アクセルフロアブル	○	○	22B	メタフルミゾン 水和剤	収穫前日まで	1000 倍	散布	3回 以内
ベネビア OD	○	○	28	シアントラニプロール 水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	3回 以内
ベリマーク SC	○	○		シアントラニプロール 水和剤	育苗期後半～ 定植当日	400 株あ たり 25ml	灌注	1回
ブリロッソ粒剤	○	○		シアントラニプロール 粒剤	育苗期後半～ 定植時	2g/株	株元 散布	1回
ブリロッソ粒剤オメガ	○	○		シアントラニプロール 粒剤	育苗期後半～ 定植時	2g/株	株元 散布	1回
フェニックス顆粒水和剤	○	○		フルベンジアミド 水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	2回 以内
ヨーバルフロアブル	○	○		テトラニプロール 水和剤	収穫前日まで	2500 倍	散布	3回 以内
グレーシア乳剤	○	○	30	フルキサメタミド乳剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	2回 以内
プレオフロアブル	○	○	UN	ピリタリル水和剤	収穫前日まで	1000 倍	散布	2回 以内

※ IRAC コードとは、殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、
本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができます。

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)
 担当：江口、福岡
 TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493

図1 トマトキバガ成虫

体長6～7mm



図2 トマトキバガ幼虫と蛹



図3 トマトキバガによるトマト葉への食害



図4 トマトキバガによるトマト果実への食害



図5 トマトキバガの食害と他害虫の食害の比較



トマトキバガ

- ・面的に食害される。
- ・葉の内部を食害し表皮のみを残すので、葉が透けて見える。
- ・糞が一か所に固まっている。



トマトハモグリバエ

- ・線的に食害される。
- ・糞が食害の筋上にある



ハスモンヨトウ

- ・葉の所々に穴が空く。
- ・糞が葉の表面にある。